

太陽光発電の 施工業務支援

PVA、技術情報共有化

200社会員募り講習会

【横浜】太陽光発電販売施工協会（PVA、横浜市都筑区、池田真樹会長、045・914・5470）は、太陽光発電システムの販売・施工企業の支援に乗り出す。広く全国から会員企業を募り、施工や保守技術情報の共有化など販売・施工業務を支援する。09年度内に200社の加入を目指す。また、利用者に対するアフターサービスの充実を図る。販売・施工活動の質を高めることで、太陽光発電システムの普及促進につなげる。

太陽光発電システムは国や自治体が導入支援策を打ち出していることもあり、販売や施工に参入する企業が増えているが、多くが中小企業。大手メーカーからの販売技術指導はあるものの、メンテナンスやトラブルに対するノウハウを持たないケースが多い。

PVAではシステムの施工・販売を手掛ける企業を対象に会員を募り、

も、技術情報の共有による相互協力に対応することなどで、会員になるメリットを訴求する。システム利用者へのアフターサービスにも力を入れる。例えば、施工業者の倒産や事業撤退で相談先を失った利用者の相談窓口を開設するなど、エンドユーザーに向けた支援体制を整備する。加えて、需要が高まる

と見られる「二酸化炭素（CO₂）排出権取引」や「グリーン電力証書」にも着目。利用者への制度説明や申請手続きの代行などを手掛けていく。太陽光発電販売施工協会は施工技術の向上などを目的に、横浜環境テザイン（横浜市都筑区）やグローバル商事（同戸塚区）など7社を中心となり、3月に設立した。

東京エレクトロニクスは、09年1-3月期に太陽電池製造装置、ディスプレイ、太陽電池製造受注額（速報）は、08年10

携帯とカーナビ連携 今年から共同規格採用

シャープとパイオニアは13日、携帯電話とカーナビゲーションシステムを連携するための規格「フォトリモノナビエ

ri・0」を共同開発し、自社製携帯電話機や液晶テレビで採用している

制御規格を、カーナビとの連携へ応用したものの。同規格はシャープが07年に自社製品向けに開発した規格「フォトリモノ」をベースとしたもので、JPEG形式の画像データ

コンクリートアルミ固体電解コンデンサー 体積30—50%削減

日本ケミコンは従来製品に比べ、体積を約30—50%削減したリード形の導電性高分子アルミ固体電解コンデンサー（写真）を開発した。定格電圧は

10Vから100Vまで対応する。これらの機器は小型化、高密度実装が進み、コンデンサーにも小型化、長寿命確保が求められる。静電容量は100—1000

0μFで、電気抵抗（ESR）は5—25mΩ。直径が6・3mmと8mm、高さが5mm、8mm、11・5mmの3種類を用意した。「PSFシリーズ」の新機種として販売する。直径6・3mm×高さ5mmモデルはすでに量産している。

発覚 改ざんデータ部品発原

「日立新体制」に いきなり冷や水

日立製作所が手がける原発プラントの部品でデータ改ざんが発覚した。しかもその中には、訴訟問題になっている中部電力浜岡原発5号機（静岡県御前崎市）が含まれている。日立は09年3月期に巨額赤字を計

日立の川村会長が1日の入社式で「おかげさまで、細かく背負ってまいりました」と強調。改ざん発覚を受け、日立は「再発防止に全力を尽くす」としている。改ざんが発覚し、配管の溶接管理データ。日立は受けた下請け会

小型で交流抵抗2200Ω

化が進んでいる。各機能する恐れがあるため、回路上でノイズを取り除く。出力放送機器